

タイトル	献辞
著者	桑原，俊一
引用	北海学園大学人文論集，36：1-2
発行日	2007-03-31

献 辞

桑 原 俊 一

安武秀岳先生は本年3月31日をもってご退職となります。北海道に新しい人文学を目指して生まれた人文学部は、学部の完成と同時に人文学研究科(大学院)日本文化専攻が先行して設置され、英米文化専攻は平成15年に開設されました。先生には英米文化専攻の大学院設置に伴い本学部に赴任いただきました。大学院では英米歴史文化特殊講義等を、学部では米国史や演習等を担当されました。戦後の日本とアメリカとの緊密な政治・経済的諸関係を考慮すれば、アメリカ研究は最もホットな研究分野のひとつですが、大学院博士課程を視野に入れてお招きする研究者となると限られるのが現状です。実際アメリカ研究や研究所を有する北海道内の大学機関は皆無と断言していいでしょう。研究環境の整えられた前任地愛知から北海道へお出でいただくには相当の決断と覚悟が必要だったに違いありません。まさしく大学院研究科英米文化専攻における礎となられた教員のお一人です。

安武先生の在任期間は決して長くはなかったにもかかわらず、私たちに沢山の記憶を残してくださいました。必ずしも専門科目だけを教えることのできない私学にあつて、赴任いただいた当初から基礎演習という一年次教育にも携わっていただきました。授業以外の学生生活についても教育を心がけておられたように思います。記憶に新しい出来事は、昨年の3学年の演習ガイダンスのおりでした。諸先生がゼミの紹介をしているときのこと、私語をする学生がいたのですが、すかさず安武先生は学生たちにむかつて私語を慎むように大きな声で厳しく諭されました。学生に面と向かって叱ることのできる数少ない先生でした。

安武先生の専門領域については、比較的近年書かれたご著書の紹介文(岡

田 泰男(著)須藤 功(著)『アメリカ経済史の新潮流』慶応義塾出版会、2003年)からその一端を垣間見ることができるように思います。「アメリカ経済史研究の最先端の動向を紹介するとともに、21世紀における新しい課題と展望を示す。取り上げるテーマは多岐にわたるが、今日最重要のもの、日本およびアメリカで関心を集めているものを中心とする。狭義の経済中心ではなく、広い視野から眺めた社会と経済の全般を扱う。単なる研究案内を超え、アメリカ経済史、より広くはアメリカに興味を持つ人々への知的挑戦の書。」この中で取り上げられている先生の論考は「市場革命—工業化と南北戦争前における政治文化の変貌—」ですが、合衆国建国後の南北戦争にいたる時期を「市場革命」という概念を使って検討と更なる検証を迫る刺激的なテーマです。かなり専門的な考察ですが、広くアメリカに興味をもつものへの知的挑戦状であることは確かです。学生たちにも時に穏やかにまた時には毅然として知的挑戦をされたと聞いております。後に続く私たちもまた先生のこの知的挑戦の熱情を遺産として継承してまいりたいと思います。今後も本学部の発展のためご指導頂ければ幸いです。先生のますますのご健勝を祈念し、退職記念号によせることばといたします。